

4月23日から5月12日は「こどもの読書週間」です

「子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所を」との願いから、「こどもの読書週間」は1959年に誕生しました。MIWにも子どもたちが読める児童書や絵本がそろっていますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



### 考えたことなかった

魚住直子著、西村ツチカ絵／偕成社／2022.10

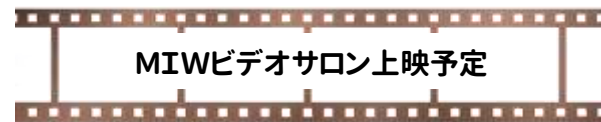
中学で野球部に所属する主人公の颯太。ある日、出会った不思議なネコに、自分の未来が大変なことになると告げられる。大変なことってなんだろう？ネコとの出会いをきっかけに、家族や友人とのこと、学校生活を通してさまざまな「こうあるべき」について考え始める男の子の物語。

### 虹色のパズル Rainbow Puzzle

天川栄人作、トミマサコ画／文研出版／2023.6

### ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい

大前栗生著／河出書房新社／2020.3



MIWでは 14:30～、18:30～に、所蔵する映像作品を上映するビデオサロンを開催します。上映後には、感想を語りあう交流会を開きます。事前申込みは不要です。ぜひ、ご参加ください。



### 4月19日(金)上映作品(予定)「オフサイド・ガールズ」

監督／ジャファル・パナヒ 2006年／92分／イラン

女性のサッカー観戦が法律で禁止されていたイラン。ドイツ・ワールドカップへの出場を賭けた大事な試合に忍び込もうとした1人の少女。入り口で兵士に見つかってしまった彼女は、同じように捕らえられた少女たちと一緒にスタジアム内に勾留されるが…。

## 千代田区男女共同参画センターMIW(ミュウ)

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所10階

電話:03-5211-8845 FAX:03-5211-8846

Eメール:miw@city.chiyoda.tokyo.jp https://miw.city.chiyoda.lg.jp/

Instagram:chiyoda.miw Facebook:@chiyoda.miw

開館時間/月～金 9:00～21:00 土 9:00～17:00 日曜・祝日休館

ホームページ メルマガ登録



## ライブラリニュース みゆう

2024年3月 101号

千代田区  
男女共同参画センター

MIW(ミュウ)



MIWマスコットキャラクター  
みゆうじろう

### ジェンダー視点で読む古典文学

紫式部を主人公としたドラマが放映されていることもあり、『源氏物語』を始め、古典文学に注目をされている方もいるのではないのでしょうか。古典文学が好きなのと、苦手なのと、千年以上前に作られ、今もなお読み継がれている作品を、ジェンダーの視点で読み解いてみませんか？現代と異なる社会規範で描かれる物語に、新たな発見があるかもしれません。



### ミライの源氏物語

山崎ナオコーラ著

淡交社

2023.3

古典文学の読みにくさは言葉の違いと、倫理観や社会規範の違いにあるのではないかと。著者は平安時代の読者と異なる、現代ならではの読み方を楽しむことを目指し、ルッキズム、ロリコン、マザコン、不倫など、現代の問題をキーワードに『源氏物語』を読み解きます。



### 日本のヤバい女の子

はらだ有彩著

柏書房

2018.6

イザナミノミコト、かぐや姫、虫愛づる姫君、乙姫一。日本の昔話や神話に登場し、時に身勝手だったり、理不尽だったり、エキセントリックに描かれてきた彼女たちを、ひとりの女の子として捉え、共感したり、怒ったり、励まし合うように語るエッセイ集。

### 平安女子は、みんな必死で恋してた：イタリア人がハマった日本の古典

イザベラ・ディオニシオ著／淡交社／2020.7

### 藤原道長を創った女たち：〈望月の世〉を読み直す

服藤早苗、高松百香編著／明石書店／2020.3

### 光源氏と女君たち：十人十色の終活

石村きみ子著／国書刊行会／2019.10





## ジェンダー

ジェンダー目線の  
広告観察

小林美香著  
現代書館  
2023.9

## 【MIWスタッフレコメンド】

日頃よく目にする広告は、その時々で流通するイメージを映す鏡。美容整形、脱毛、スマホゲーム、「デキる男」像、性感染症予防啓発など、著者自身が収集した豊富な「広告観察」の写真を用いて、こうした広告が作り出すジェンダー観を問い直す意欲作。

## 分断されないフェミニズム

## : ほどほどに、誰かとつながり、生き延びる

荒木菜穂著／青弓社／2023.12

「女の敵は女」といった、女性同士を衝突させる呪いの言葉に抗うために。また、女性として「同じ」であることだけでなく、各々の立場の違いを認め合い、差別を作り出す社会をとともに変えていくために。フェミニズムの運動と思想のなかで練り上げられてきた「シスターフッド」の歴史を振り返りながら、分断と連帯の新たな関係を模索する。

## 女ことばってなんなのかしら？

## : 「性別の美学」の日本語

平野卿子著／河出書房新社／2023.5

翻訳家として日本語、英語、ドイツ語に接してきた著者が、世界ではあまり例のない「女ことば」について、その歴史や役割について論じる。見過ごしがちな日本語の性差別を手がかりに、日本のジェンダ―格差を見つめ直す。

## 音楽・芸術

彼女たちのまなざし  
Female Gaze  
: 日本映画の女性作家

北村匡平、児玉美月著  
フィルムアート社  
2023.12

## 【MIWスタッフレコメンド】

今なお男性中心の映画業界で、期待される「女性らしさ」を跳ね返し、多様な作品を手掛けてきた「女性監督」たち。本書では、映画史や作品の分析を通じて、その彼女たち自身が向き合う「女性監督」とは何かという問いに迫っていく。無機質で色味をおさえたプリズマティックな表紙にも注目。

## 女性たちの声は、ヒットチャートの外に

: 音楽と生きる女性 30名の“今”と“姿勢”を  
探るインタビュー集

平井莉生著／ソウ・スウィート・パブリッシング／  
2023.11

毎年男性が半数以上を占めてきたヒットチャートが暗示する、音楽業界のジェンダーバイアス。そこで生きる女性たちは、この問題をどのように考え、何を表現してきたのか。実際に第一線で活躍する30人のインタビュー集が書籍化。

## 「ピアノを弾く少女」の誕生

## : ジェンダーと近代日本の音楽文化史

玉川裕子著／青土社／2023.9

女子の習い事の定番となって久しいピアノ。日本の近代化にともなう西洋音楽の受容や、女子教育といったジェンダー規範形成と結びついて、「ピアノを弾く少女」のイメージが形成されていく過程を明らかにする。

## 文学

アフター・アガサ・クリ  
スティー  
: 犯罪小説を書き継ぐ  
女性作家たち

サリー・クライン著  
左右社  
2023.7

## 【MIWスタッフレコメンド】

本書は、日常的に暴力に対して恐怖や不安を抱く女性たちが、なぜ犯罪小説を好んで読んできたのか、という問いから始まり、アガサ・クリスティーの登場から、これまでの女性作家による犯罪小説の系譜を辿る。また現代の女性作家たちに対して、なぜ犯罪小説を書くのか、小説に暴力を書くことの意味などを聞く、豊富なインタビューにより、女性と犯罪小説との関係について紹介していく。

## 永瀬清子詩集

永瀬清子著、谷川俊太郎選／岩波書店／  
2023.10

「詩というのは、「記憶に価値する言葉の流れ」ではなかろうか——。〈現代詩の母〉である永瀬清子による、結婚や育児といった日常生活から、婦人参政権やリブなどの運動まで、女性たちの「記憶」を掬い取る詩・短章・散文を一望できる詩集。谷川俊太郎との対談も集録。

## ##NAME##

児玉雨子著／河出書房新社／2023.7

子どもたちを消費対象とする「ジュニアアイドル」、過去の活動が残り続ける「デジタルタトゥー」の問題などを題材とした第169回芥川賞ノミネート作品。主人公の元ジュニアアイドルの女性が、ネットに残り続けるかつての活動の負の影響を受け、葛藤する姿を描く。

## コミック

Build a chair  
ビルド・ア・チェア

加藤羽入著  
祥伝社  
2023.8

## 【MIWスタッフレコメンド】

女の子ならこうあるべき…、じゃあそうない自分の居場所はどこだろう？小女誌で恋愛以外の作品を描きたいマンガ家、本当は可愛い洋服が好きなのに、大柄な体型だから諦めてきた女の子…。生きづらさを抱えた女の子／女性たちが、自分の居場所〈椅子〉を作り出していく。読むと勇気もらえる短編集。

## 胚培養士ミズイロ 1～3巻

おかざき真里著／小学館／2023.2～9

不妊治療を題材にした、青年誌で連載中の作品。胚培養士とは医師の指導のもと生殖補助医療、卵子と精子を受精させたり管理をする専門職。高齢出産や男性不妊、卵子凍結など生殖医療の現状や課題、また不妊治療を受ける人たちの葛藤や苦悩が描かれている。

## 環と周

よしながふみ著／集英社／2023.10

『大奥』『きのう何食べた？』など実写化される作品も多い漫画家よしながふみさんの最新作。「環」と「周」という2人の人物が、時代を超えて生まれ変わり、巡り合うオムニバス形式の作品。性別も関係性も変わるが、家族愛、恋愛、友情など、さまざまな形の人と人との深いつながりを描く物語。